

公有林野官行造林法案委員會會議錄(速記)第三回

會議

大正九年七月十五日午前十時二十分開議

出席委員左ノ如シ

- 中倉方次郎君 長谷川宗治君 宇野 勇作君
- 伊藤 廣幾君 波多野善右衛門君 國重 政亮君
- 安原仁兵衛君 菊川 惣吉君 古林 與六君
- 藤井 啓一君 金田平兵衛君 阿由葉勝作君
- 齋藤宇一郎君 中川幸太郎君 小菅劍之助君

出席政府委員左ノ如シ

- 北海道廳長官 笠井 信一君
- 農商務次官 田中 隆三君
- 農商務省山林局長 中井 勵作君

本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ

公有林野官行造林法案

○委員長(中倉方次郎君) ソレデハ公有林野官行委員會ノ前回ノ續キヲ開キマス、前回ニ於テ質問ハ大體終了致シマシタ、伊藤君ヨリ北海道長官ニ御意見ヲ問ヒタイ事ガアルト云フノデ、ソレダケヲ保留シテアリマス

○伊藤廣幾君 一昨々日、北海道ニ於ケル町村ニ對シテ公有林ヲ附與スルノ御計畫ガアルヤ否ヤト云フコトニ就テ、農商務大臣ニ御尋シタ所ガ、自分ノ方ノ主管デナキガ故ニ、此事ニ就テハ答ヘルコトガ出來ヌ、斯ウ云フ御話デコザイマシタ故ニ、更ニ北海道長官ノ御出席ヲ煩ハシマシテ、此問題ヲ御尋シタイト思ヒ居、タ次第デコザイマス、幸ニ御出席ガコザイマシタカラ、自分ヨリ更ニ御尋ヲ致シタイト思ヒマス、此府縣ニ於ケル公有林ノ整理ノ爲メニ、官行造林ヲ計畫サレルト云フコトハ、私共ニ於テモ極メテ肝要ナ事ト存ジマスガ、北海道ニ於ケル町村ニハ、未ダ公有林ト云フモノ、附與ヲ致シテ居ラヌノデアリマスカラ、北海道ニ於ケル町村ニ公有林ヲ附與スルノ御計畫ガアルヤ否ヤト云フコトヲ第一ニ御尋ネシタイトデアリマス、ソレハ北海道ニ於ケル町村モ、開拓ノ進歩ニ伴ヒマシテ、町村ニ於ケル財政モ漸次困難ノ状態ニ陥リツ、アルノデアリマス、ソレハ北海道ニ於ケル町村ハ、區域ガ廣大ニシテ、而シテ其町村ニ於ケル諸種ノ施設ガ、極メテ多ク増シツ、アルノデアリマス、例ヘバ教育費ノ如キ、或ハ土木費ノ如キ、教育費ノ如キハ、北海道ニ於ケル町村ハ、少ナクテ一町村ニ四ツ五ツノ小學校ガアル、多キハ十數ノ小學校ガアルト云フヤウナ都合デアリマシテ、私ノ町村ノ如キモノモ、九ツノ小學校ガ一村内ニアルト云フヤウナ状態デア

アリマス、此町村ノ經濟ト云フモノハ、從テ漸次困難ニ赴キツ、アルノデアリマス、其故ニ此町村ノ財產ニ向テ造成ヲスルト云フコトガ、極メテ必要ヲ感ズルノデアリマス、其町村財產ト致シマシテハ、林野ト云フモノガ最モ確實ナル、又町村ノヤウナ公共團體ガ持テ居ル所ノ基本財產トシテハ、森林ガ最モ適當ナルト云フコトハ、多言ヲ要シナイノデアリマス、斯ウ云フヤウナ性質ノ公有林野ヲ、未ダ政府ガ北海道ノ町村ニ向テ附與シテ居ラヌノデアリマス、ソレハ町村ノ財政ニ對シテ未ダ造成スルノ域ニ達シテ居ラヌト云フ譯デアリマス、附與シナイノデアアルカト云フコトモ承リタイノデアリマス、又一面ニ於キマシテハ唯タ基本財產ト云フ經濟上ノ問題ニ非ラズシテ、町村住民ノ薪炭デアリマスガ、是ハ二十年、或ハ三十年以前ニ於キマシテハ、北海道ニ於テハ鬱蒼タル森林ガアリマスルガ、薪炭ト云フ問題ニ就キマシテハ、餘リ多ク注意ヲ拂ハンデ居リマシタガ、開拓ノ進歩ニ伴ヒテ、現在ニ於テハ町村ニ薪炭ヲ供給スベキ山林ト云フモノガ十分無イノデアリマス、ソレ故ニ現今ハ各町村先ヅ、北見或ハ手鹽ノ如キ、唯今開拓シツ、セル所ノ地方ハ除キマシテ、石狩國ノ如キ早く開ク地方、及膽振、或ハ渡島、後志、兔角、大數ノ北海道ニ於ケル町村ガ、薪炭ノ缺乏ノ爲メニ住民ガ非常ニ困難ヲスルト云フコトハ、是ハ事實上爭フベカラザルコトデアリマス、隨テ薪炭モ年々歳々手間代ガ騰貴致シマシテ、殆冬期ニ於ケル所ノ薪炭ノ價ヨリモ尙ホ高イト云フ所ノ地方ガアルノデアリマス、ソレ故ニ北海道ニ於ケル町村ノ住民ハ、薪炭ノ缺乏ノ爲メニ非常ニ困難ヲシテ殆冬期ノ數個月間ト云フモノハ、薪炭ノ供給ヲ仰ガン爲メニ冬期行テ薪炭ヲ買入レテ、漸ク此冬ノ寒サヲ防グト云フ状態ニナツテ居ルノデアリマス、ソレ故ニ北海道ニ於キマシテハ、食糧問題モ大問題デアリマスケレドモ、氣候ノ上カラ申シマスルト食糧ノ缺乏ニ劣ラザル所ノ此薪炭ノ缺乏ト云フモノハ、非常ニ苦痛ヲ感ジテ居ルノデアリマス、殊ニ此建築材ニ就テモ御承知ノ通り北海道ノ家屋ハ全部改良ヲシナケレバナラヌト云フ状態ニナツテ居リマス、夫レ等ノ建築用材ノ如キハ無論近傍ニナイト云フ譯デアリマス、斯様ナ譯合デア

ルニ拘ラズ、今日未ダ公有林ト云フモノヲ附與シテ呉レナイ公有林ト云フモノヲ町村ニ與ヘテ居ラヌト云フコトハ、北海道ノ町村トシテハ極メテ重大ナル所ノ利害關係ノアル所ノ問題デアリマス、一面ニ於キマシテハ、府縣ニ於テハ斯ノ如

キ林野ノ整理ノナス爲メニ、政府ハ殊ニ官行造林ヲナスト云フ計畫ヲ立テ、サウシテ町村ノ財政或ハ保安上ノタメニ計畫ヲ立テラレ、居ルト云フ際ニ、此北海道獨リ只今申上テマシタヤウナ状態ニアルト云フコトハ、如何ニモ我國ニ於テハ殆ト隨一タル領土ヲ控ヘタル北海道町村トシテハ不幸此上モナイト思ヒマスルカラ、政府ニ於テハ何等カ之ニ就テ相當ノ計畫ヲ立テ、居ラレルコトハ信ジマスルガ、是等ニ就テ詳シク御尋ヲ致シタイト思フノデアリマス、最モ此四十二年頃ニ河島醇氏ガ長官ノ時代ニ、公有林問題ガ非常ニ喧マシクアツテ此問題ヲ解決センガ爲メニ、國有林ノ一部ヲ割イテ將來ハ之ヲ或ハ公有林ニシヤウカト云フヤウナ意味モアリマシタラウカ、此道有財產ニ移シテ居ルノデアリマス、併ウシテ地方費ヲ以テ之ヲ經營ヲ致シテ居ルノデアリマス、併ナガラ道有財產ト公有林トハ全ク趣ヲ異ニシテ居ルノデアリマス、又河島氏ガ計畫ヲ立テ、居ルノハ此町村ニ關係シタ所ノ道有財產トシテ、森林ヲ有テ居ルト云フ譯デアリナイノデアリマシテ、殆ト町村トハ關係ガナイノデアリマシテ、或ハ十數里、或ハ數十里ノ先ニ唯ダ名義ノ上ノ道有財產トシテ、國有林ヲ有テ居ルノデアリマスカラ、全ク公有林ヲ設置セシムルト云フ意味カラ申シマスレバ、無意味ニナツテ居ルヤウナ考ガアリマス、計畫トシテハ多少公有林ニ對シテ考慮ヲ廻ラシタト云フ事實ハアリマスケレドモ、其後一向是等ニ對シテ計畫ヲ進メテ居ラナイト云フヤウナコトモ認メテ居リマス、又今回議會ニ御提出ニナツタ所ノ拓殖事業計畫改正案ニ於テモ、此林業ニ對シマシテハ、此官行所伐ニ對スル所ノ經費ヲ計上サレテ居リマスケレドモ、此町村ニ對スル所ノ公有林ト云フモノニ對シテハ、少シモ計畫等ノ事ハ見ヘマセヌノデ、愈、此北海道ニ於ケル町村ハ、公有林ト云フモノニ對シテハ毫末モ其恩澤ヲ蒙ルコトハ出來ナイガ、併シ現狀カラ考ヘレバ、一方ニ於テハ薪炭ノ缺乏ヲ訴ヘテ居ルト云フ際ニ、如何ニ政府ガ之ニ對シテ適切ナル所ノ的確ナル所ノ御計畫ヲ立テ、以テ町村ノ維持、及住民ノ生活ノ安定ヲ期スルコトガ出來ヤウカ、斯ウ云フヤウナ事ニ就テ御伺ヒヲ致シタイトデアリマスガ、何分此問題ハ北海道ニハ重大ナル所ノ問題ト考ヘマス、故ニ十分ナル御説明ヲ御願ヒ致シタイト思ヒマス

○笠井政府委員 北海道ノ公有林ノ事ニ就キマシテノ御問デアリマスガ、此大體ニ別シマシテ御話ヲ致シテ置キタイト思ヒ居リマス、唯今伊藤君ノ御言葉ノ中ニモアリマシタ

道有林ノ事、是ハ北海道區村長ノ公有林ニ重大ナル關係ヲ有テ居リマス、重大ナル關係ト申スヨリモ、其大部分ハ或ハ公有林デアラウトモ存ジマスガ、其點カラ御話ヲ申上ゲタイト存ジマス、道有林ノ中ニ道有模範林ト又道廳ノモノガ通俗ニ有テ居ル道有公有林ト二種類アリマス、道有模範林ト云フハ北海道ノ道廳有ノモノデ、北海道全體ニ通ジタル利害關係ヲ有テ居ル林デアリマス、道有公有林ト申シマスルハ北海道ノ區町村ノ林野、是ハ其性質ニ於テ區町村有デアリマス、其積リテ保管シテ居リマス、唯今ノ所デハ先程申シマシタ道有模範林ト云フノガ十八万町歩アリマス、道有公有林ト云フノガ二十三万町歩アリマス、此道有公有林ヲ更ニ將來ハ四十五万町歩マデニ増シタイト云フ計畫ヲ以テ、只今調査シツ、アルノデアリマス、此道有公有林ナルモノハ只今ノ所デハ一箇所、十箇所ニ別レテ居リマス、是レハ道廳ノ技術者ヲシテ始終監督ヲセシムルコトハ勿論ノコト、施業案等モ國有林ニ對スルモ、道有林ニ對スルモ、道有公有林ニ對スルモ、同様ナ扱ヒヲ以テ親切ニ扱テ居リマス、其中ニ先程申シタ十八万町歩ノ道有模範林ハ北海道ノ收入ニ屬シマスケレドモ、道有公有林ノ收入ト云フモノハ、是ハ他日相當ノ條件ノ下ニ區町村ニ分配シヤウト思ヒマシテ、總テ積立テ居リマス、又、只今ノ所デハ約十萬圓許リノ金額ニ達シテ居リマス、又、林野ノ大體ニ於キマシテ、原始林ト同様デアラツテ、何レモ樹ハ繁茂シテ居リマス、特ニ造林ヲシナケバナラヌ、必要ハ今感ジテ居リマセヌ、最モ整理等ノ如キ、或ハ他ノ國有林ニ對スルと同様ノ注意ヲ拂テ居ルコトハ勿論デアリマス、此積立テラレタ費用ハ相當ノ金額ニ達シタラバ、區町村ノ土木、勸業、教育等ノ費用ニ支出シタイト云フコトデ、内務大臣ノ指揮ヲ受ケテ、其命令通り致サウト存ジテ居リマス、ソレモ道廳ノ内規中ニ明確ニ規定サレテ居リマス、此以外ニ尙ホ町村有、或ハ部落有、其他ノ團體有デアリヤウナ所謂公有林ト云フモノガ別ニアリマス、ソレ等ヲ計算スルト約十萬町歩ニナリマス、此區町村有ノ先程申シマシタ道有、公有林以外ノ區町村有トカ部落有ノ公有林ハ、是ハ未開地處分法ニ依テ植樹地ヲ其町村カラ拂下ヲ申シテ參リマシタノヲ、處分ヲシテ遺タノデアリマス、是ハ山林トハ申ナガラ、其以外ニ今平原ニシテ耕地ニ適スル所モアリマスノデ、町村ニ於テ整理シテ、農耕地ニ適スル所ハ農耕地ニシ、適セザル所ハ植樹ノスト云フヤウナ事ノ計畫モ追々出來テ參リマス、ソレ等ニ就キマシテ本道ニ於テ其世話ヲスルコトニシタ以來斯ル町村ニアリマシテハ出來ルダケ樹ヲ植ヘサセルコトニシテ居リマス、部落有ノ公有林ト云フノモ、發生ノ原

因ガ略ボ同様ノ譯デ、是ハ先程伊藤君ノ御話ノ通り、或部落ガ出來ル時ニ、與ヘラレタ面積ノ開墾致シマスル爲メニ、其部分ノ樹ハ全部伐ツテシマツテ、農耕地ハ、出來マシタケレドモ、彼等ガ使フ所ノ薪炭ガ不足デアルノデ、生活上困難デアルト云フコトヲ聽キマスルト云フト、丁度薪炭部林ト云フヤウナモノヲ設置スルコトニシテ居リマス、ソレデ其附近ニ於テ相當薪炭用ニナルヤウナ森林ヲ其地方ノ者ニ拂下ヲシテ、部落有ニシテ居リマス、是モ矢張部落ニ於テ農耕ニ適スル所ハ兎ニ角、直接ノ計畫問題ノ爲メニ、農耕地ニ起スコトハ已ムヲ得ヌコトデアルト存ジマスガ、傾斜ノ強キ所、農耕ニ寧ろ不適當デアル所デ、山林ニスルノガ宜イト云フ所ハ、無論山林トシテ存續セシムベク、ソレダケノ條件ヲ附ケテ拂下ヲシテ居リマス、完全トハ申兼ネルケレドモ、其條件ヲ完ウセシムルコトニ努メテ監督致シテ居リマス、其他公有林官林デアルトカ、或ハ屯田兵ニ變ニ下附シタモノガ、一種ノ部落ト思ヒテ居リマス、サウ云フ部落有ノモノガアリマス、ソレ等ヲ併セテ約十萬町歩ニナリマス、ソレデ大體ノ分配方ハサウ云フ工合ニ新部落ガ出來マスルト、其必要ニ應ジテヤル事ニシテアリマス、先程伊藤君カラノ御話ノ、河島長官ノ時代ノ公有林云々ト云フコトハ、蓋シ道有公有林ヲ指シタモノデアラウト思ヒマス、是ハ道廳内ニ於テ各町村ニ分配ヲシテ見タラドウダラウカト云フ説モアリマシタ、併シ此或時代ニハ詮議シテ見タコトモアルサウデアリマス、併シ此場所ガ各町村ニ互ツテ、分配スルコトガ到底出來ナイコトナリマス、一ツノ區域ニ一箇所ノ圍地ニナツテ居リマスノデ、他ノ町村ニ實物ヲ以テ分配ノシヤウガナイノデアリマス、之ヲ強イテ持分ヲ分ケル上ニ極メテ困難デアリマス、ソレデ此所ニ纏テ居ルガ爲メニ、相當ノ技術者ヲ特派シテ、調査ヲサセ、或ハ監督ヲサセルト云フコトモ出來マス、要スルニ利益ヲ舉ゲルト云フ點ニ就キマシテハ、只今ノ方法ノ方ガ宜イノデ、此方法デ參リマスルト、決シテ山林ノ荒廢セラレルコトモナイ、實際ハ道廳自カラガ相當ノ技術者ヲ出シ旅費ヲ使フテ、サウシテ町村ノ爲メニ將來ニ利益ヲ舉ケルヤウナ工合ニ、造林ノ方ノ心配ノ無イヤウナ工合ニシテ居リマス、結局ハ造林ト云フ點及經濟ト云フ點カラ申シマス、此方ガ理想的下考ヘラレノデアリマス、是ガ將來四十八萬町歩マデニスルニハ、自然場所ガ殖エテ來ルト同時ニ、現在ノ所ヨリモ變タ所ガ散在サレルト云フ事ハ、是ハ無論アル譯デアリマスガ、是モ成ダケ小サキ面積デナク、圍地トシテ公有林モ設置シタイト存ジテ居リマス、本道ノ拓殖計畫ノ中ニモアリマスガ、苗圃苗木ノ養成、ソレカラ造林獎勵ヲシ、苗木ヲ配付スルトカ云フコトモ豫算ノ内ニ入ツテ居リマス、

是ハ公有林ニ對シテモ、個人ニ對シテモ同様ニ考ヘテ居リマスケレドモ、實際ノ遺方ニナリマスルト、先ツ公有林ノ方カラ拂下ナドヲ申シテ參リマスレバ、成ベク其方ニ先キニ與ヘテ、一般ノ效力ヲ舉ゲルト云フコトニナツテ居リマス、不用林ノ方モ努メテ公有林ト致シヤルト云フコトニナツテ居リマス、茲ニ開ケタル委員會ノ主タル目的ノ公有林ヲ官業デアルト云フヤウナ法律案之ニ就テハ私ハ遂ニ拜見ヲ致シマセヌガ、其目的ト北海道ノ公有林トノ關係ニ就キマシテハ承知ヲ致シマセヌケレドモ、北海道ノ實際ノ狀況ハ前申ス通り進ンデ居ルト思ヒマス、尙ホ或地點ヲ指シテ申シマスルト、荒廢ノ如キ狀態ノモノモアリマスルガ、大體北海道ト云フモノガ、元ハ全部山林デアラツテ、之ヲ伐ルニ非ザレバ開墾ヲスル譯ニイカヌ、殖民モ爲ヌ譯ニ行カヌノデアリマス、是ハドウモ拓殖上已ムヲ得ザル狀況デアルト存ジマス、併シ殖民ヲスルト同時ニ、生活上又薪炭其他用材ノ必要ト云フコトハ當然ノ事デアリマスカラシテ、其點ニ就テハ、吾々トシテ重大ナル注意ヲ拂ハウト致シテ居ルノデアリマス、大體ノ狀況ヲ申シテ御答ト致シマス。

○伊藤廣幾君 尙ホ只今ノ御説明ニ依テ御尋フ致シタイノデアリマスルガ、此道有財産トシテ二十三万町歩ヲ取ツテ置イダ、ハ將來公有林ト云フ考デ、町村ニ交付スル意味デアルト云フ御説明ハ、如何ニモサウ云フ風ニ承知シテ居リマシタ、然ルニ只今公有林ノ性質ヲ帯ビテ存置シテ居ル所ノ道有財産ノ森林ハ、一國ニ一箇所ト云フヤウナ割合デ、十州ニ十箇所ノ森林ヲ有テ居ルト云フコトデアリマス、是等ハ實際此町村トハドレダケノ所謂利害關係ヲ有ツダラウカ、單ニ僅カナル金ヲ一數百町村ガ僅カナル所ノ金ヲ得ンガ爲メニ此公有林ヲ有ツト云フノデアレバ、私ハソレヲ以テ満足ハ出來ナイト思ヒマス、恰モ此一箇國ニ一箇所デアラマシレバ、東北デ申シマスレバ、巖手ノ町村ガ秋田縣ノ町村ニ公有林ヲ有テ居ルト云フヤウナ譯ト同ジデ、其町村ニ密接ナル所ノ關係ヲ有テ居リマセヌカラ、公有林ヨリ年々伐木杯ヲシテ、色々直接ノ其町民ノ利益ト云フコトハ少ナイト思フデアリマス、此公有林ノ性質ヲ帯ビタルモノガ、數百里或ハ數十里先キニゴザイマシテモ、ソレカラ森林ノ實際ノ恩惠ト云フモノハ、其町村ニ於テ利益スル所ハ極メテ少ナイト思フノデアリマス、其故私共ノ希望スル所ハ唯ダ僅カナル所ノ金ヲ町村ニ補助スル、或ハ下付スル斯ウ云フヤウナ希望ヨリク、成ベク此町村ニ近接ノ場所ニ於テ出來ルダケ公有林ト云フノ效果ヲ得ルヤウニ願ヒタイ、然ラザレバ北海道ガ年々伐採ノ事ガ盛ニナツテ、遂ニ此町村ニ於テ一本ノ木モナクナルト云フヤウナ時代ニ進ミマシテ、薪炭、建築材ガ非常ニ困難ニシテ居ル、ソレニ對シテ應急ノ處置ヲ致シマシテ、町村

ニ關係ノアル場所ニ於テ、矢張町村ニ交付ノ手續ヲ踏マレマシテ、サウシテ一方ニ於テ此植民ノ方ノ獎勵ニモナラウシ、又此建築材、或ハ薪炭トシテモ、不用ナモノハ拂下ケルコトモ出来ヤウト思ヒマスカラ、ソレニ就テ實ハ切望シテ居リマス次第デアリマス、故ニ御尋ヲシタノデアリマス、ソレデ公有林ハ河島長官ガ計畫ヲサレタヤウニスルノハ、或ル理想論トシテ、理論トシテハ宜イカモ知レマセヌガ、實際ノ問題トシテサウ云フヤウナ計畫ハ適切シタルモノナルヤ否ヤト云フコトハ、十年ノ年數ヲ經ルニ就テ、益々町村トノ近接ノ場所ニ於テ公有林ヲ拵ヘルト云フコトハ、一般ニ缺乏シテ居ル所ノ場合デアリマスガ故ニ、ドウシテモ是マデ河島氏ノ計畫サレタヤウニ、一箇國ニ一箇所ノ公有林、ソレノミヲ以テ満足シテ居ル、其他町村ノ公有林ト云フモノニ對シテ別段計畫シテナイ、斯ウ云フヤウナ譯ニナッテ居ルノデアリマスガ、或ハ又此町村ニ近接ノ場所ニ適當ナ森林ガアッタラバ、之ヲ公有林トシテ行ク御計畫アラウカ、實際北海道ヲ踏シテ御覽ニナルト判リマセウカ、函館カラ參リマシテ札幌ニ行ッテ上川ニ行キマス、立派ナ町村デアリマスガ、此町村ヲ一見致シマシテ、モウ既ニ木ト云フモノハ何モ無イ、サウ云フ詰リ町村制ヲ施行サレテ、町民ノ生活ニ密接シテ、サウシテ富ノ程度ガ高クナッテ居ル地方ノ町村ガ、森林ト云フモノニ全ク關係ノ無イヤウナ、所謂木ト云フモノニ段々缺乏ヲ來シテ、サウシテ十數里ノ先キニ行ッテ、薪炭ヲ買求メナケレバナラヌト云フヤウナ状態ニナッテ居ルノデアリマスカラ、其等ノ實際問題トシテ何等カ此際ニ於テ應急ノ御計畫ガアツテモ宜カラウト思ヒマスガ故ニ、實ハ重ネテ御伺ヒテ置キタイノデア

ル、河島長官ノ御計畫ヲ其儘何處マデモ御踏襲ニナッテ、サウシテ町村ニ對シテ密接ナル所ノ場所ニ於テ、公有林ヲ御計畫ナサル御考デアアルカ否カト云フコトヲ、更ニ御尋シタイト思フノデアリマス、ソレカラ御説明ノ中ニ、部落有ニ此公有林ガアルト云フ御話デゴザイマシタガ、是ハ何レノ地方デ、ドウ云フ公有林ヲ有シテ居ルノデアリマセウカ、又ドウ云フ御規則ノ下ニ部落有ノ財產ト云フモノヲ許サレテ居ルノデアリマセウカ、是モ小サナ問題デアリマスガ、重ネテ御尋ニ致シタイノデアリマス

○笠井政府委員 只今重ネテ御問ノ點ハ總テ御答シタ積リデアッタノデ、道有公有林ハ區町村ノ利益トナッテ居ル、其區町村有モ部落有ノモノモ、其他團體有ノモノガアツテ、ソレヲ合セテ約十萬町歩アル、是ハ各町ノ必要ニ應ジ、未開地ハ拂下ケテ請フテ來タ時分ニ特ニ拂下ケル、部落有同様ノ譯デアアル、今後モ區町村ニ於テ、或ハ部落ニ於テ、共同林トシテ或ル團體林トシテ有シテ行キタイ、斯ウ云フヤウナ時ニハ、成ベクサウ云フ便宜ヲ與ヘテ處分シテ行カウ、

斯ウ云フコトデアリマス、デアルクラシテ今後ハ漸次後トノ方申シマスルト、區町村有部落有、公有林ト云フモノハ増加サレルコトニナッテ居リマス、部落有ガ何處ニアルカト云フコトデアリマスガ、是ハ私ハ此所ニ材料ヲ有テ居リマセヌノデ、何處ノ場所ト云フコトヲ申スコトハ出来マセヌガ、是ハ約四十町歩バカリ部落有ニナッテ居リマス、又實際其附近ニ於テ持ッテ居リマフルモノガ約八萬町歩バカリ持ッテ居リマス、是ハ部落有ニハ、現ニ私が參リマシテカラモ、數回其處分ヲシタコトデアリマス、但シ何村ノ何ンデアアルカト云フコトハ、自分モ只今記憶シテ居リマセヌ、要スルニ漸次町村ノ便宜ナル場所ニ公有林ガ貫ヘルト云フコトハ、事實トシテ此處デ御話シテ差支ナイコトデアリマス、公有林ノ方ノ性質上町村有ニシタト云フコトハ、私ハ河島長官ノシタ事ニ對シテ、誠ニ善イ事ヲシテ置イテ呉レタト云フコトヲ、私モ竊カニ感謝シテ居リマス、北海道民ハ之ヲ聞キマシタナラバ、將來斯ウ云フ公有林ノ利益ハ多大デアルト思ヒマス、只今ノ所デ十萬圓、金額ハ僅カデアリマスケレドモ、是ハ公有林ヲ知ラナイデ居ルノデアリマス、之ヲ聞キマシタナラバ、非常ニ感謝スルダラウト思ヒマス、是ハ漸次増加シテ唯今二十三萬町歩バカリ、金額ニ引直シマシタナラバ、非常ナモノデアツテ、餘程各町村ト云フモノハ是ガ爲メニ大ナル財產ヲ得テ居ルコト、考ヘル、而モ是ハ將來四十五萬町歩マデニ進ムルト云フ計畫ニナッテ居リマス、是ハ頗ル北海道ノ町村ノ爲メニ結構ナ事デアルト思ヒマス、伊藤君モ其邊ニ就テドウカ御諒解ヲ願フテ置キマス

○伊藤廣幾君 モウ少シ御尋致シマスガ、唯今公有林ト云フモノノ隨時御下賜爲サルコトニナッテ居ル、或ハ賣拂フコトニナッテ居ルト云フ御話デアリマスガ、私共ノ知テ居ル所デハ、町村ト申シマシテモ、公共團體ト云フモノノ個人ト特別ニ是ハ取扱フシテ居ラナイト考ヘテ居リマス、即チ個人ニ於テハ不要林ト云フコトヲ御告布ニナッテデアリマスレバ、一般的ニ不要林ナルモノヲ、或ハ未開地ナルモノガ何人ト雖モ相當ノ價デアレバ手ニ入レルコトガ出来ルコトニナッテ居リマス、町村モ矢張同様ニ、請リ町村ニ於テモ左様ナ考アル町村ガデアリマスレバ、自分ノ森林ニスルコトガ出来ルト云フノデ、個人ト同様ニ下渡シテ呉レルト云フ場合ガアルヤウニ覺エテ居リマス、併ナカラ町村ニ對シテハ、森林ヲ與ヘナケレバ、將來ニ於テ維持スルノガ困難デアルト云フ計畫ノ下ニ、拂下ケルハ貸下ヲ爲シタ例ハ私ハ乏シヤウニ考ヘテ居リマス、ソコデ北海道ノ問題ト致シマシテハ、多クノ人ハ將來ニ對シテ餘程心配シテ居ルヤウナ状態デアリマス、幸ヒ只今長官ノ御説明ノヤウニ、此町村ニ對シテ公有林ヲ與レタト云フコトデアリマスレバ、何等私共質疑スルコトハゴザイマセ

スガ、私ハ薪炭或ハ建築材或ハ基本財産ノ増置トカ、斯ウ云フ事ノ御尋ヲシタノデアリマスガ、併ナカラ私ノ知テ居ル所デハ、成程是ハ特別取扱フ今日ニ於テハシテ居リマスガ、此考ノミヲ以テ既ニ足レリト考ヘマスル故ニ、ソコデ此場合ニ於テ御尋ヲシタ私トシテモ、河島長官ニ對シテ前ニ寬大ト云フ意味デアアリマセヌガ、希望トシテハ獨逸アタリデアスウ云フヤウナ計畫ヲ立テテ事ヲ聞イテ居リマシタカラ、現在ノ北海道ノ公有林トシテ、ドウ云フモノデアラウト云フ考ガデアリマスルカラ、唯タ此事ヲ申シタニ過ギナイノデアリマスソレカラ部落財產ト云フコトハ、詳シイ事ハ御説明ガ無イト云フコトデアリマシタガ、是ハ屯田ガ數大隊デアリマスノデ、屯田ノ共有財產トシテ、大分ノ土地ヲ與レテ居リマス、ソレデ矢張此屯田ノ共有財產ガ多イ、ソレガ部落有財產ニナッテ居リマス、其他普通ノ町村ニ於テハ、部落有財產トシテ山林ヲ持ッテ居ルモノハナカラウト思ヒマス、ソレハドウ云フ標準方法ニアアルカト云フコトヲ御尋シタノデアリマス、要スルニ私ノ町村ニ對スル希望ハ北海道ニ於ケル町村ノ有様ヲ調査シテ見ルト、將來ハ薪炭、或ハ建築ノ材料ニ大ニ缺乏スルガ之ヲ如何ニ維持シテ行クト云フコトヲ御尋シタノデアリマス

○齋藤守一郎君 幸ニ北海道長官ガ御見エニナッテ居リマスカラ、私モ二三伺ッテ見タイト思ヒマス、今伊藤君ノ御話ニ依テ、北海道ハ勿論、薪炭建築材ニ缺乏シテ居ルト云フコトヲ承クノデアリマス、先日日本國ノ森林國ト申サレテ居ル所ノ秋田縣アタリデモ、既ニ木材ノ缺乏ヲ來シテ居ルト云フコトヲ述ベタノデアリマス、私ガ今北海道ハマダ左程薪炭及ビ建築材ニ缺乏ヲ告ゲル程荒レテ居ラナイダラウト思ッテ居ッタノデアリマス、實際ニ通ジテ居ル所ノ伊藤君ノ御話ニ依テサウデアリトスレバ、是ハ事實デアアル、是ハドウ云フ譯デアスウナッテアラウカ、曾テ私ハ北海道デ唯タ森林ヲ倒シテ畑ヲ造ルト云フコト、唯タ急速ニ人ヲ入ル、ト云フコトニ、焦ッテ、サウシテ是ハ將來ノ大計畫ヲ過ッタ爲メニ、最早碌々人モ入ラス中ニ、薪炭建築材ニ缺乏ヲ來シタト云フヤウナ結果ヲ來シタノデアアルマイカト思ヒマスガ、果シテ今カラ薪炭建築材ニ缺乏ヲ來スヤウデアレバ、是ハ北海道ト云フ大寶庫ト看做サレテ居ッタ所ガ、ドウ云フ譯デアスウ云フヤウニナッテデアリマセウカ、一應伺ッテ見タイ、ソレカラ第二ニ伺ヒタイノハ、既ニ今申上ゲマシタヤウナ見地カラ考ヘテ見マス、開墾計畫ヲ致シテ、其土地ヲ拂下ケル上ニ於テ、森林ノ存置ヲ如何ナル程度ニシナケレバナラヌト云フコトハ、初メカラ考ヘテ居タモノデアラウカ、又現在ドレダケ將來北海道ニ人ヲ入レテ、ドレダケ森林ヲ存置シテ置ケバ、生活ノ安定ヲ得ラレ、薪炭及建築材ヲ供給シ得ラレ

スガ、私ハ薪炭或ハ建築材或ハ基本財産ノ増置トカ、斯ウ云フ事ノ御尋ヲシタノデアリマスガ、併ナカラ私ノ知テ居ル所デハ、成程是ハ特別取扱フ今日ニ於テハシテ居リマスガ、此考ノミヲ以テ既ニ足レリト考ヘマスル故ニ、ソコデ此場合ニ於テ御尋ヲシタ私トシテモ、河島長官ニ對シテ前ニ寬大ト云フ意味デアアリマセヌガ、希望トシテハ獨逸アタリデアスウ云フヤウナ計畫ヲ立テテ事ヲ聞イテ居リマシタカラ、現在ノ北海道ノ公有林トシテ、ドウ云フモノデアラウト云フ考ガデアリマスルカラ、唯タ此事ヲ申シタニ過ギナイノデアリマスソレカラ部落財產ト云フコトハ、詳シイ事ハ御説明ガ無イト云フコトデアリマシタガ、是ハ屯田ガ數大隊デアリマスノデ、屯田ノ共有財產トシテ、大分ノ土地ヲ與レテ居リマス、ソレデ矢張此屯田ノ共有財產ガ多イ、ソレガ部落有財產ニナッテ居リマス、其他普通ノ町村ニ於テハ、部落有財產トシテ山林ヲ持ッテ居ルモノハナカラウト思ヒマス、ソレハドウ云フ標準方法ニアアルカト云フコトヲ御尋シタノデアリマス、要スルニ私ノ町村ニ對スル希望ハ北海道ニ於ケル町村ノ有様ヲ調査シテ見ルト、將來ハ薪炭、或ハ建築ノ材料ニ大ニ缺乏スルガ之ヲ如何ニ維持シテ行クト云フコトヲ御尋シタノデアリマス

ルト云フ計畫ガ立テ居リマスカ否ヤ、ソレヲ一應伺ヒタイ、ソレカラ既ニ今ハ薪炭建築材ノ缺乏ヲ來スニ迫テ居ルノデアリマスカラ、其開墾ノ結果トシテ、今日折角開拓致シマシタ所ノ田畑ニ最早耕作上障害ヲ來シテ、是レ以上進歩スルコトノ出來ナイヤウナ状態ニ陥ル所ナキヤ否ヤ、吾々ノ聽ク所ニ依レバ、餘リ伐リ取テ爲メニ、霜害ガ激シクナリテ、農作物ガ十分ニ出來ナイ、或ハ畑地ヲ地目變換ヲ致シテ水田ニシタイガ、水ヲ得ラレナイト云フヤウナ所ガ、段々出テ來タト云フコトモ洩レ聞イテ居リマス、果シテ然リトスレバ、是ハ無計畫ノ開墾シテ、無暗ニ樹木ヲ伐取テ結果ニ外ナラヌトモ想像サレルノデアリマス、ソレニ就テ如何ナル御調ベニナリテ居リマスカ伺ヒタイ、其次ニハ北海道ノ稻作モ漸次研究サレテ、昨今デハ殆ド内地ニ劣ラナイ程ノ品種及ビ收穫ヲ見ルヤウナ場所モアルヤウナコトデアリマス、併ナガラ今申シタ通りニ、最早森林ガ荒廢シテ居リマスレバ、併ナ障害ガ起テ來、水源ト云フコトニ對シテハ必ズヤ是ハ不足ヲ來シ、何トカシナケレバ將來水田ノ開發ガ出來ナイト云フヤウナ状態ニナリテ居ルガラウト思フ、果シテ然ラバ水源林ト云フヤウナモノヲ、其地目變換ヲシテ、水田ヲ拵ヘルヤウナ場所ニ對シテ、漸次水源林デモ御仕立ニナルヤウナ御計畫ガ立テ居リマセウカ、其邊ノ事モ承リタイト思ヒマス

クテモ、人ノ生活上必要ノモノハ殘シテ、其餘ヲ開墾シテ差支ナイト云フコトニ致シマシタ、是ハ單ニ私バカリデハナク、或ハ私ノ前任者モサウ考ヘテ居ラウト思ヒマス、兎ニ角以前ハ五町歩全部ヲ開墾スル、又其以上ノ土地デモ矢張り同様ノ考ヲ以テヤンテ居タモノト見エテ、百町歩ヲ農耕地トシテ開墾シタ者ニハ、百町歩全部ヲ拂下ゲルテ居リヤウナコトデ、田地ガ開カレタ所ニハ木ガナクナリテ居リマス、從テ其邊カラハ一本ノ薪炭モ出ナイト云フ議論ガ出テ參リマス、ケレドモ是ハ北海道ノ總テノ部落ガサウト云フ譯デアアリマセウ、又一面ノ道廳ノ扱モ、サウ云フ新部落ガ薪炭ノ無イ所ハ、其附近ノ適當ノ所ニ土地ガアレバ、サウ云フ所ニ共同薪炭樹林ト云フモノヲ置クコトニ始終注意ヲ致シテ致リマス、現ニ私ハ其土地ノ名前ハ忘レマシタガ、數十箇所サウ云フ所ノ出來タノヲ承知シテ居リマス、將來之ヲ經營スルニ就テ、遺憾ノナイヤウニ、殊ニ其部落ノモノガ誠心誠意注意ヲスルト云フコトデアレバ、サウ云フ所ニハ共同薪炭林ヲ設置シテヤルコトニシヤウト云フコトニナリテ居リマス、大體ニ於キマシテハ北海道ニ移住スル者ハ、成ルベク多ノ木ヲ伐テ、多クノ利益ヲ得テ行カウト云フ考ノ人、又ハ農耕地ヲ幾分デモ多ク得ヤウト云フヤウナコトカラ、木ヲ粗末ニスルト云フ風ガアルヤウニ感ゼラレマス、一タビ其近所ガサウ云フ風ニナリマスルト、其處ノ部落ニハ往々ニシテ薪炭ノ不足ヲ感ズルヤウナコトガ出來マスガ、又心掛ケノ宜イ所ハ、早クモ共同林ト云フヤウナモノヲ設置シテ、別段ノ議論モナクヤンテ居リマス、ソレ故ニ北海道ノ事ハ一概ニ論ズルコトハ出來マセウガ、ズット以前ノ回顧致シマスト、兎モ角材木ヲ粗末ニシタ結果ガ、今日ノ缺乏ヲ來タス原因トナリテ居ルト存ゼラレノデアリマスト、次に第二ノ御問ハ、北海道ノ薪炭材トシテ、或ハ用材トシテドレダケノ山林ヲ置イテ宜イカト云フヤウナコトハ、常ニ調査中ニアリマシテ、ハッキリシタ數字ヲ以テ説明ハ致シ兼テマシガ、北海道ノ土地ハ是ハ荒蕪ボク申シマスト、一ハ國有林ト、一ハ未開地ニ區別致シマシテ、或ル時代ニ國有林ト未開地トノ分界ヲ致シマシタ、サウシテ只今マデ其分界ガ適當デアルカドウカ、又未開地ノ方ニ既ニ編入ニナリテ居ル所デモ、之ハ將來北海道ノ國有林トシテ經營シタ方ガ適當デアルト云フ時分ニハ、是ヲ國有林ニ返ス事ニシテ居リマス、又國有林ノ境界ニ入ラデ居ルモノデモ、調査ノ結果農耕地ニ入ルヤウナ所ハ、是ハ未開地ノ方ニ編入換ヲ致シテ居リマス、ソレハ年々調査ヲ進メテ居リマセウガ、マダ本當ノ正確ナル境界ハ定メテ居ラスト云フ方ガ適當デアラウト存ジマス、茲ニ多少數字ガアリマスケレドモ、是ハ計算シテ見ナケレバ分リマセウガ、大體ノ計畫ヲ申シマスト、昨年來

國有林ニ屬スルモノハ官行斫伐ノ法ヲ採リマシテ、施業案ヲ作テ、適當ノ程度ニ一面ヲ伐リ、其材木ハ經濟的ニ製材シテ賣出スト云フヤウナ事ニシテ、山ノ荒サナイヤウナ途ヲ採テ居リマス、サウシテ一面ハ造林計畫ヲ立テ、是モ施業案ヲ作テ造林ニ充テテアリス、先程御話中ニアリマセウ水源涵養林ハ、一モ北海道ニ森林法ガ行ハレテ居リマセウ、法律モ其名前ハ如何デアルカ知リマセウガ、取扱方ハ水源涵養林デ、或ル場合ハ特ニサウ云フ事ニ取扱テ居リマス、吾々ノ間デアレバ、是ハ山林水源涵養林、是ハ風致林、是ハ保安林デアルト云フヤウニ、或所ハ固定國有林、或ハ唯ダ國有林ト云フヤウニ處分シテ居リマス、開墾ト山林ノ事ニ就テ御尋モアリマシタガ、是ハ只今御話シタヤウナ工合ニ林業法ノ掛リノ者ト殖民ノ掛リノ者ト双方ガ國有林ト未開地トノ境ニ就テハ特ニ研究ヲシテ、此部分ハ國有林ハ保存スベキ必要ガナイトカ、此部分ハ未開地ノ處分ヲ致シテ開墾ヲサセルト云フ事ニシテ居リマス、是ニ就キマシテハ餘程技術者トシテ綿密ナ調査ヲ致シテ差支ナイ、開墾ヲ許シテ不都合ナキモノト認メタ部分ニ於テ、未開地處分ヲ行シテ居リマス、併シテ治水上ノ關係カラ極端ノ事ヲ申シマセウガ、山林ハ其儘山林ニシテ置クガ都合ガ良イコトト思ヒマスケレドモ、大體トシテハ北海道ヲ拓殖スルト申シマスト、ドウシテモ利害關係ノ相反スルコトガアル、是ハ已ムヲ得ナイコトデ、大體ニ於テ差支ナイ事ナレバ開墾サセルトニシテ、具體的事實の問題ニ依テサウ云フ際下イ所ハ處分スルコトニナリテ居リマス、水田ト家トノ關係、是ハ無論調査シテ用水ノ分量ニ就テ基本調査ヲシテ、此邊ハ水田ヲ起シテ差支ナイト云フ所ヲ殊ニ用水道ヲ穿ツト云フコトヲ許可シテ居リマス、是ハ治水ノ方ノ技術者ト農業ノ方ノ技術者ト、双方意見ノ合致シタ場合ニ行フテ居リマス、山林ノ方ノ水源涵養ハ先程申上ゲマシタ通り、相當ノ川ハ水源地ニ當リマス、北海道デハ全部固定國有林ニナリテ居リマス、大イナル所ハ其點ハ内地ヨリ嚴重ニ水源涵養林ハ設定サレテ居ルモノト考ヘテ居リマス、唯平地ニ在リテ屢、洪水ノ氾濫シテ、被害ノ重大ナルモノガ出來マスノハ、是ハ唯水源涵養林ガ不足デアルトカ、山ガ濫伐サレテ居ルバカリデナク、從來治水費ガ取テ居リマセウ、石狩川ノ一部ニ護岸工事ノ費用ガ取テ居ルタケデ、其他ハ大イナ川ハ約二十六河川アリマセウガ、其河ニハ昔ノ通りデ、無堤防、無防禦ノ原始時代ノ流ノマニ、ノ状態デアリマセウガ、是ハ治水事業ノ一切行ラヌバカリデナク、山林ノ荒廢ニ責任ヲ歸スルコトガ出來ナイカト存ジマス、若シ今ノ状態ニシテ治水事業ガ行ハレズシテ開墾ヲ行レバ、又自然其ノ儘ニシテ置カナケレバナラヌト思ヒマセウカラ、ソレデ非常ナ費用ガ掛ルモノデアリマスガ、

治水費此議會ニモ案ヲ立テ、提出スル事ニ致シマシタ、
今後モ年々歳々幾分カ宛經費ヲ出シテ、一面河ノ流ヲ固
メテ、ソウシテ水害ヲ防イデ、農民ノ苦ヲ休メ、灌漑用水ノ
如キ、排水ノ如キモノヲ良クシテ、稻田ト云フモノヲモウ少
シ造成ヲ致シタイト存ジテ居リマス、稲ト水トノ關係ハ、水
源ノ元方ヲ考ヘルノガ重要ナル事ト同時ニ、治水ガ必要デ
アリ、排水ガ必要アルト云フヤウト工合ニナリテ居リマス
ノデ、出來ルダケ三方四方ニ關係ヲ持テ今研究シ、豫算ガ
出來マシタナラバ、或部分カラ其事業ニ著手シテ參リタイ
ト存ジテ居リマス、唯今ノ所デハ特ニ水源ガ枯渴シタトカ、
少ナクナリタイト云フ感ハ私モ新シイカラ能ク存ジマセヌケ
レドモ、聞イテ見マシテモ、特ニ少ナクナリタイト云フヤウナ感
モ無イト云フ事デアリマス、ドウソモ其邊御了承ヲ願ヒマス
○齋藤宇一郎君 時間モアリマセヌカラ、私ハ餘リ多クヲ
述ベマセヌガ、大體ノ御説明ヲ承リマス、詳細ハ盡シテ居
リマセヌガ、大分御答辯ニ御困リノヤウナ點モアツタヤウデアリ
マスカラ、細カイ質問ハ致シマゲセヌ、御話ヲ承リテ私ノ感
ハ、從來北海道ノ開拓ニハ何等永遠ニ互ツタ計畫ハ立テ
居ラナイ、現在デモマダ其計畫ガ明カニ立テ居ラナイヤウ
ニ私共ハ承ルノデアリマス、即チ御説明ノ中ニ、將來ドレダ
ケノ人間ヲ入レテ、其人間ガ生活シテ行ク上ニ於テ、ドレダ
ケノ薪炭建築材ヲ要スルカ、北海道ハソレヲ供給シ得ルヤ
否ヤト云フコトニ就テ御計畫ガ、マダ定テ居ラナイト云
フヤウニ承リタリマス、ソレデハ甚ダ是ハ困ツコトニナリ
マス、而シテ片端カラ段々ト土地ハ開拓サレテ行ク、薪炭ハ
或部分トハ仰シヤルケレドモ、兎ニ角缺乏シテ居ル、建築材
モ無イト云フコトニナリテ來ルト、植林ニ對シテ北海道ヘ御
出デナサイト云フテモ、心配デ行カレナイコトニナルノデアリ
マス、況ヤ唯今此本州ニ於テ木材ガ無クナラバ、北海道
ヘ行テ持テ來ヤウト云フ感ハ、皆持テ居ル、其北海道
ガ既ニ斯ノ如クデアルトスレバ、將來日本ノ木材ノ需要供
給ノ計畫ハドウナルカト云フコトデ、益々心配ヲ重ネル譯ニナ
ルノデアリマス、斯ノ如クナリタイト云フコトハ、要スルニ是ハ北
海道ノ森林ヲ拓殖ノ財源トシタト云フコトガ一番ノ誤リデ
アラウト思フ、ドウシテモ是ハ北海道廳デ之ヲ扱テ居テ、
而シテ何處マデモ開カネバナラス人ヲ急ニ入レナケレバナラ
ヌト云フ目的ニ迫ラレテ、之ヲ利用シテ行クト云フコトニナ
リマスレバ、是ハ濫伐ニ陥ルコトハ決マテ居ル、ソレガ一番
ノ原因デラウト思フノデアリマスカラ、私共ハ本當ニ日本ガ
木材ノ需要供給ヲ安定シテ、將來生活上ノ安心ヲ得サセ
ルト云フコトデアレバ、即チ總テノ森林ヲ或ル一省ニ統一シ
本當ノ計畫ヲ樹テナケレバ行カヌモノデナイカ、斯ウ云フノ
ガ私ノ此間ノ日ニ於テ、大臣マデ出席ヲ求メテ質問ヲシ、

四十二議會ニ於テモ其事ヲ質問シタ所以デアリマス、農商
務次官モ御出デナリテ居リマスガ、能ク此事情ハ御了解
ニナリタイト思フ、而シテ私ハ唯今水田ヲ段々處理シテ行
ク上ニ於テ、水源ノ心配ハ無イガ、若シアツタトスレバ、ソレニ
對スル計畫ハドウデアアルカト云フコトヲ伺ヒマシタガ、ソレニ
對シテ御説明ハ、先ヅ今ノ所デハ足リナイト云フコトハ聞カ
ナイ、斯ウ云フ御話デアリマスガ、是ハドウシテモ起テ來ル
ベキ問題デ、又起テ所モ少ナクナイト思ヒマス、是ハ敢テ
私ハ當事者ヲ責メナイ、モト北海道ハ木ヲ伐ツテサウシテ畑
ニスルト云フ方針ヲ執テ、是ハ開墾ノ上カラ順序トシテ當
然ナ事デアアル、又當初ハ米ガ出來ルカ出來ヌカト云フコト
ガ判ラナカッタ、今度出來ルト云フコトニナリタイ以上、地目ノ
變更ニ依リテ、重要食物タル米ヲ作ルト云フコトニナリタイハ、
是ハ國策ノ進歩デアリマシテ、誠ニ結構デアアル、サウナレバ
畑ヲ田地ニスルトハ最初ノ計畫ト餘程違テ來ルノハ當然
デアリマスカラ、私ハ敢テ是ハ誤ラ結果デアルトハ申シマセ
ヌガ、果シテサウ云フ時代ニ進メバ、水源ノ計畫ト云フモノ
ハ、ドウシテモ當局ガ一步進デヤラナケレバナラスノデアリ
マス、ソレガマダ御計畫ニ無イト云フコトハ甚ダ遺憾ニ思フ
ノデアリマス、ドウカサウ云フコトハ將來能ク御調査ニナリ
マシテ、皆安心シテ北海道ニ行キ得ラレ、日本共通ノ此
木材ノ需要供給ヲ圓滿ナラシメテ、サウシテ生活ノ安全ヲ
得ルト云フ國策ニ對シテ計畫ヲナサルコトヲ私ハ望ムノ
デアリマス、私ノ根本論トシテハ、是ハ統一スルト云フノガ
意見デアリマスケレドモ、先ヅ現在斯ウ云フ制度ニナリテ居
ル以上、一日モ早く北海道長官モ此邊ニドウカ御注意ヲ
サレンコトヲ望ムノデアリマス、是デ私ノ質問ヲ終リマス

○委員長(中倉萬次郎君) 是デ質問全部ノ終了ト致シ
マス、是ヨリ討論ニ移リマス、御意見ガアレバ……
○長谷川宗治君 唯今マデハ此案ニ全ク關係ノナイ北海
道ニ對スル質問ガアリマシタ、私ハ是ヨリ討論ニ移リマス、
本案ニ對スル意見ハ別ニアリマセヌ、是ハ原案ヲ賛成致シ
マス、兎ニ角町村ノ基本財産ヲ造リマス上ニ於テ、本案ハ
全ク適當ナ案ト思ヒマスル故ニ、原案ヲ賛成致ス次第デア
リマス
○齋藤宇一郎君 私モ意見ヲ述ベマス、本案ハ第四十二
議會ニ於キマシテ、我ハ生活物資ノ計畫ノ一部ト見マシ
テ、之ニ賛成ヲ致シタノデアリマスカラ、ソレト同案ナル本案
ニモ同意ヲ致シマス、唯ダ茲ニ一言附加ヘテ置キタイコトハ
今回ノ委員會ニハ、北海道ノ伊藤君ガ委員トシテ列席セ
ラレマシタ爲メニ、北海道ノ事情ノ大體ヲ吾ニガ承ハルコト
ガ出來、而シテ吾ニノ森林ニ關スル木材供給ニ關スル研究
ニ、非常ナル便宜ヲ與ヘラレタルコトヲ喜ブノデアリマス、ド

ウカ農商務當局ニ於キマシテモ、此總テノ森林ニ對シテノ
大計畫ヲ樹テル上ニ於テ、北海道ノ現狀ノ如キハ十分御
研究御參酌ニナリ、將來ノ方針ヲ決メラレンコトヲ此際ニ
切望シテ賛成ヲ致シマス
○藤井啓一君 私ハ今日初メテ出マシタガ、大體ニ就キ
マシテハ異論ハゴザイマセヌガ、唯タ一言希望トシテ申上デ
テ置キタイノハ、本案ニ依リマス、勅令ノ定ムル所ニ依リテ
云々ト斯ウナリテ居リマス、勅令案ノ要項ヲ見マス、第一
一ニ造林計畫ノ決定、即チ造林地ノ選定並ニ造林地施
業案ノ決定ニ就テハ、大林區署長ト地方長官ト協議スベ
キコト、斯ウゴザイマス、私ノ希望ハ勅令ノ趣旨ヲ關係町村
長ノ意見ヲ徵シ、協議スルコト云フコトニ改メラレンコトヲ
希望致シマス、町村ト共同經營ノ性質ノモノデアリマス
カラ、勅令モ其趣旨ニ定メラル、コトヲ希望致シマス、此希
望ヲ以テ本案ニ賛成致シマス
○伊藤廣幾君 私ハ本案ニ對シテ同意デアリマスガ、北
海道ノ公有林ニ就テ道廳長官ニ希望ヲ述ベマス、我國ニ
於テ公有林ノ取扱ハ統一ノニナル方ガ適當ト思ヒマス、然
ルニ北海道長官ノ説明ニ依リテ、總テ公有林ノ取扱ニ對シ
テ、河島長官時代ノ方針ヲ以テ満足シテ居ルヤウナ説明ガ
アツタ、ソレデ實際政府ニ於テドウナリテ居ルカト云フコトヲ、
此際政府ニ於テ御調査ヲ願ヒタイト思ヒマス、所管ハ内務
省ニ屬シテ居リマスケレドモ、政府ト云フ所カラ見ルト何レ
ニ屬シテ居テモ、公有林ノ取扱ヲ統一ノニスル趣旨ヲ徹
底スル御計畫ヲ立テラレタイト思ヒマスカラ、此點ヲ特ニ政
府當局ニ希望ヲ申述ベテ此案ニ賛成致シマス
○委員長(中倉萬次郎君) 他ニ御意見ハアリマセヌカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○委員長(中倉萬次郎君) ソレデハ全會一致デア原案ハ
可決セラレタモノト決定致シマス、——是デ此委員會ハ散
會致シマス
午前十一時三十四分散會

○委員長(中倉萬次郎君) ソレデハ全會一致デア原案ハ
可決セラレタモノト決定致シマス、——是デ此委員會ハ散
會致シマス
午前十一時三十四分散會

大正九年八月四日印刷

大正九年八月五日發行

衆議院事務局

印刷者 印刷局